

2023 年度
東京大学大学院情報学環
教育部シラバス

情報社会論講義X

(情報社会論講義—社会情報学基礎論—)

関谷 直也 教授ほか

S1S2 ターム 木曜5限(2単位) 時間割コード: 5A301008

授業の目標・概要

「社会情報学」とは、メディアやコミュニケーションに関わる社会現象・文化現象、そして情報社会における諸問題を、「社会情報」という視点から学際的に分析する学問である。古くは1929年に設置された東京大学最古の学際組織である「新聞学教室」、1949年「新聞研究所」、1929年「社会情報研究所」にルーツを持ち、そこでの教育部研究生制度は現在の情報学環教育部研究生制度に引き継がれている。

社会情報学コースは、メディアとジャーナリズム、法・政策、経済・産業、社会・歴史、社会心理・情報行動、アジア・地域という6つの領域からなり、ここでは、情報法、情報政治学、デジタル経済学、情報社会心理学、メディア思想、メディア社会学、災害情報研究など、既存の人文社会系学問に基礎を置きつつ、最新のデータと学際的知見を駆使した研究が行われ、その成果の一部が授業で紹介される。

本講義はオムニバス講義として、社会情報学コース所属の教員が1コマの中で各自の研究分野に関連する学部2～3年生向けの講義として実施される。

教科書

特になし(各担当教員が指示する)

参考書

特になし(各担当教員が指示する)

授業計画

- | | | | |
|------|-------|-------|-------------------------------|
| 第1回 | 4月10日 | 関谷直也 | ガイダンス |
| 第2回 | 4月17日 | 関谷直也① | マス・コミュニケーション効果研究 |
| 第3回 | 4月24日 | 関谷直也② | 災害情報と情報行動 |
| 第4回 | 5月8日 | | 休講 |
| 第5回 | 5月15日 | 開沼博 | フィールド研究、現代社会論 |
| 第6回 | 5月22日 | 高木聡一郎 | デフレーミング時代のビジネス・イノベーション(オンライン) |
| 第7回 | 5月29日 | 永石尚也 | デジタル・プラットフォームにおける「法」とそのリスク |
| 第8回 | 6月5日 | 酒井麻千子 | 著作権法入門—社会・技術と法の役割を考える |
| 第9回 | 6月12日 | 大庭幸治 | 統計学とビッグデータパラドクス |
| 第10回 | 6月19日 | 北田暁大 | メディア社会学の「起源」と知の展開 |
| 第11回 | 6月26日 | 三谷武司 | ルーマン「社会学的啓蒙」を読む(オンライン) |
| 第12回 | 7月3日 | 石崎雅人 | 専門家社会における情報再考 |
| 第13回 | 7月10日 | 山口いつ子 | データ・フェアネスと「情報法」の共創(オンライン) |
| 第14回 | 7月24日 | | 予備日(休講がない限り開講せず) |

情報技術論講義Ⅹ

(ヒューマンコンピュータインタラクション概論)

濱田 健夫 特任講師、ハウタサーリ アリ 特任准教授

S1S2 ターム 火曜5限(2単位) 時間割コード: 5A401009

授業の目標・概要

我々はテクノロジーに囲まれ日々の生活を便利に過ごすことができているが、テクノロジーを利用するためにはユーザとの間を取り持つインタフェースが不可欠である。ヒューマンコンピュータインタラクション(HCI)はインタフェースを介してどのようにコンピュータと関わり利用するかについて焦点を当てた学際的学問分野である。この分野の研究成果を知ることでテクノロジーのデザイン手法を学ぶことができる。本講義ではHCIに関する幅広い研究トピックスを交えてデザイン原理や方法論について紹介するとともに、バーチャルリアリティ(VR)技術を使ったグループワークを通して、インタラクションデザインの実習を行う。

教科書

必要があれば適宜指示する。

参考書

『The Design of Everyday Things』, Don Norman

『オーグメンテッド・ヒューマン』, 暦本 純一

『VRは脳をどう変えるか? 仮想現実の心理学』, Jeremy Bailenson

授業計画

- 第1週(4/11) オープニング, History of HCI
- 第2週(4/18) User Interface / Experience / Interaction Design (UI / UX)
- 第3週(4/25) Computer-Mediated Communication (CMC) and Affective Computing
- 第4週(5/2) Extended Reality (XR): Augmented / Virtual / Mixed Reality (AR / VR / MR)
- 第5週(5/9) Computer-Supported Cooperative Work (CSCW) and Social Media
- 第6週(5/16) Human Augmentation / Cyborg / Wearable Computing
- 第7週(5/23) Artificial Intelligence (AI) and Internet of Things (IoT) in HCI
- 第8週(5/30) HCI Methodology (ゲストスピーカー)
- 第9週(6/6) アイデア出し, チームビルディング
- 第10週(6/13) Interaction Design in XR (1)
- 第11週(6/20) Interaction Design in XR (2)
- 第12週(6/27) Designing with VR
- 第13週(7/4) Designing in VR
- 第14週(7/11) Designing for VR
- 第15週(7/25) 最終発表会

情報技術論実験実習 II

(東京大学制作展)

苗村 健 教授

通年 水曜 4 限 (4 単位) 時間割コード: 5A404002

授業の目標・概要

メディアやコンテンツの研究に取り組む学生を対象として、通年で開講する。7 月と 11 月に展示会を開催するために、さまざまな表現手法を学び、それぞれが作品を制作する。また、受講者は企画や運営上の役割を担い、ディスカッションを通して展示全般のプロセスを実践する。最終的には、活動の概要をまとめたアーカイブ冊子を刊行する。

教科書

なし

参考書

なし

授業計画

- 4 月 役割分担・7 月展示 (Extra) に向けたコンセプト確定
- 5 月 Extra の広報発信・作品制作
- 6 月 Extra の運営準備・作品制作
- 7 月 Extra 開催
- 8 月 オープンキャンパス出展・11 月展示 (制作展) に向けたコンセプト確定・作品制作
- 9 月 作品制作
- 10 月 制作展の広報発信・運営準備・作品制作
- 11 月 制作展開催
- 12 月 アーカイブ冊子の製作
- 1 月 アーカイブ冊子の完成

特別講義Ⅲ（教育部概論）

前田幸男教授、越塚登教授、中川茂樹准教授、
丹羽美之教授、松山裕教授、上條俊介准教授

S1S2 ターム 木曜 5 限（2 単位） 時間割コード：5A701003

授業の目標・概要

まず、ユニークな特性を持つ教育部というプログラムの歴史を跡づけ、そこで研究生になるということの意義を確認する。

そのうえで、情報学環を構成する多様な研究者が、おおむね 2 回ずつそれぞれの専門領域について概説する。なお、下記には学際情報学府における各研究者の所属コースが記されているが、講義のなかでコース全体の概説するわけではなく、あくまで各自の専門領域についての講義となる。

情報学環、および教育部の全体像を理解してもらうために 2013 年度にはじめて開講された授業。1 年生はなるべく履修してほしい。

講師毎に A4 用紙 1 枚のコメント・レポートを提出（合計 5 回）。出席とそれらの内容を総合的に勘案して成績評価する。

教科書

なし

参考書

各講師が適宜、紹介、説明する。

授業計画

第 1 週	4/5	予備日
第 2 週	4/19	前田 幸男（文化・人間情報学コース）
第 3 週	4/26	前田 幸男（文化・人間情報学コース）
第 4 週	5/10	越塚 登（総合分析情報学コース）
第 5 週	5/17	越塚 登（総合分析情報学コース）
第 6 週	5/24	予備日
第 7 週	5/31	予備日
第 8 週	6/7	丹羽 美之（社会情報学コース）
第 9 週	6/14	丹羽 美之（社会情報学コース）
第 10 週	6/21	松山 裕（生物統計情報学コース）
第 11 週	6/28	松山 裕（生物統計情報学コース）
第 12 週	7/5	中川 茂樹（先端表現情報学コース）
第 13 週	7/12	中川 茂樹（先端表現情報学コース）
第 14 週	7/19	予備日

情報社会論講義Ⅷ

(プラットフォーム論～市民、メディア、国家は巨大テック企業とどう向き合えばいいのか?)

西村 陽一 講師

(情報学環客員教授/元朝日新聞社常務取締役/

元ザ・ハフィントン・ポスト・ジャパン代表取締役)

S1S2 ターム 木曜 5 限 (2 単位) 時間割コード: 5A301008

授業の目標・概要

記者として日本、米国、ロシア、中国で勤務した後、朝日新聞社の編集トップと日米合弁ネットメディア「ザ・ハフィントン・ポスト・ジャパン」の代表を務めた実体験を踏まえ、GAFAM (Google、Apple、Facebook=Meta、Amazon、Microsoft) に代表される巨大デジタル・プラットフォーム (ビッグ・テック) について、様々な角度から考えます。史上最も急速な成長を遂げた彼らは、皆さんの日常生活や人間関係にとって不可欠の存在となっています。時に政府をも凌駕する絶大なパワーを持ち、米中対立、米大統領選挙、ウクライナ戦争もその存在抜きには語れない時代となりました。最近ではビジネスモデルの成熟と成長の鈍化、「コロナ」後の大量リストラなどが報道されていますが、一方で、ChatGPT に代表される人工知能や AR・VRなどをめぐる新たな競争も激しくなってきました。この歴史の転機に、「市民・読者・ユーザー」「ジャーナリズム」「国家」の三つの層に分けてそれぞれのプラットフォームとの関係を考察するとともに、「生活」「選挙」「戦争」「地政学」といった各次元に応じて彼らが果たしている役割を分析することで、その本質とは何か、いったん立ち止まって見直すのがこの授業の目的です。ツイッター買収劇、日米欧の法廷や議会での論争、世界を席卷したティックトック、合併したヤフーとライン、ウェブ3.0やメタバースといった具体例も適宜織り交ぜながら進めていきます。

教科書

とくにありません。

参考書

『GAFAM next stage ガーファ ネクストステージ四騎士+Xの次なる支配戦略』 スコット・ギャロウェイ 東洋経済新報社
『監視資本主義—人類の未来を賭けた闘い』 ショシャナ・ズボフ 東洋経済新報社
『マインドハッキング—あなたの感情を支配し行動を操るソーシャルメディア—』 クリストファー・ワイリー 新潮社
『プラットフォーム・レボリューション』 ジェフリー・パーカーほか ダイヤモンド社
『ネットワーク・エフェクト』 アンドリュー・チェン 日経BP
『なぜ、TikTokは世界一になれたのか?』 マシュー・ブレナン かんき出版
『デマの影響力』 シナン・アラル ダイヤモンド社
これらを含む関連書籍のエッセンスは講義の中でその都度紹介します。

授業計画

- 第1週 ガイダンス～日本と世界のメディアをとりまく過去・現在・未来
- 第2週 プラットフォームのビジネスモデル～パワーと成長の源泉、ネットワーク効果
- 第3週 戦争と情報～ロシア・ウクライナ戦争とプラットフォーム
- 第4週 地政学リスク～Technopolar World, WMD, デジタルのベルリンの壁
- 第5週 逆風のフェイスブック～フェイスブックペーパーズを読む
- 第6週 プラットフォーマー論争～トランプ、表現の自由、ケンブリッジ・アナリティカ
- 第7週 現代の石油・ビッグデータの規制～日米欧中の構図、規制論の歴史と背景
- 第8週 欧州とプラットフォーム～GDPR、著作権指令、DSA、DMA、
- 第9週 米国とプラットフォーム～反トラスト法、通信品位法 230 条、イノベーション
- 第10週 日本とプラットフォーム～公取委の議論、SNS 規制、共同規制論
- 第11週 ジャーナリズムとプラットフォーム～ニュースの対価をめぐる各国の議論
- 第12週 中国とプラットフォーム～デジタル権威主義、TikTok 急成長の背景
- 第13週 民主主義とプラットフォーム～個人情報、データ主権、偽レビュー、公共性
- 第14週 日本にプラットフォームは生まれるのか
- 第15週 ディスカッションとまとめ

テーマに関連した大きな出来事が起きた場合は日程や内容、順番を変更する可能性があります。また、皆さんの希望があれば、番外編として途中1～2回、自由参加の「オフィスアワー」を設けて自由に議論します。

情報産業論実験実習Ⅶ

(出版メディアから考えるストーリーの伝え方)

奥村 元春 講師 (講談社)

A1A2 ターム 月曜 5 限 (4 単位) 時間割コード: 5A204007

授業の目標・概要

2000 年から現在まで、総合出版社において少女漫画→女性ファッション誌→男性カルチャー誌→青年漫画誌→動画編集チーム→写真週刊誌→小説出版部とさまざまなジャンルの編集を経験してきました。出版の仕組み、編集者の仕事を具体的に提示しながら、時代とともに変わってきたこと、変わらないこと、これから変えようとしていることを時にはゲストを招きながらお伝えします。本講義を通じて書籍編集の基本と販売や流通の実際を学び、出版というメディアの特性を知ること、「アイデアを形にし、広めていく方法」を身につけ、「ストーリーの作り方」がさまざまな場面で応用が効くことを実感していただきたいと考えています。

教科書

なし

参考書

必要な場合は都度提示します

授業計画

- 第 1 週 オリエンテーション
- 第 2 週 小説のジャンルについて (伝え方にはいろいろな形がある)
- 第 3 週 小説ができるまで 1 (誰に何を届けるかを考える)
- 第 4 週 小説ができるまで 2 (装丁から考える伝達方法)
- 第 5 週 校閲の役割 (“物語” をよりよく伝えるために)
- 第 6 週 販売の役割 (売るとは伝えること)
- 第 7 週 電子書籍の現在 (見えないものは伝わらない、時代・国境を越えて)
- 第 8 週 印刷所見学 (アイデアが形になる現場)
- 第 9 週 書店流通以外の本との出会い (会員制読書倶楽部について)
- 第 10 週 AI と小説 (物語には型がある)
- 第 11 週 小説の他メディア展開 (映像化を参考に伝え方の違いを考える)
- 第 12 週 小説家の頭の中 (現役小説家の生の声を聞いて、0 から 1 になるヒントを学ぶ)
- 第 13 週 まとめ

※ゲスト等により日程・内容を変更する可能性があります。

情報技術論講義 X

(社会インフラを支えるサイバーフィジカルシステム)

片岡 欣夫 講師 (株式会社東芝)

A1A2 ターム 火曜 5 限 (2 単位) 時間割コード: 5A401010

授業の目標・概要

ライフラインや産業を支える社会インフラは昨今、IoT 技術の活用により、サイバー空間と連携して分析や制御を行うサイバーフィジカルシステム(CPS)化が進んでいる。本講義では、これら社会インフラが抱える課題、CPS による解決の取り組み、具体的な事例や注目される最新技術を紹介する。さらに受講者との議論を通じ、より安心・安全で快適な人々の社会生活を指すためにどのような技術を実現していくべきかを考える。受講を通じ、社会インフラ向けの CPS 技術に馴染んで頂く。

教科書

なし

参考書

島田太郎, 他, "スケールフリーネットワーク ものづくり日本だからできる DX," 日経 BP 社(2021)
福本勲, 他, "デジタルファースト・ソサエティ 一価値を共創するプラットフォーム・エコシステムー," 日刊工業新聞社(2019 年)

授業計画

- 第 1 週: 【概要】社会インフラと CPS ①
- 第 2 週: 【概要】社会インフラと CPS ②
- 第 3 週: 【社会展開例】CPS 応用事例①
- 第 4 週: 【関連技術】通信・ネットワーク①
- 第 5 週: 【関連技術】AI
- 第 6 週: 【関連技術】デバイス①
- 第 7 週: 【討議】CPS を用いたインフラサービスの検討①
- 第 8 週: 【社会展開例】CPS 応用事例②
- 第 9 週: 【関連技術】通信・ネットワーク②
- 第 10 週: 【関連技術】デバイス②
- 第 11 週: 【関連技術】データベース
- 第 12 週: 【討議】CPS を用いたインフラサービスの検討②
- 第 13 週: 【クロージング】講義まとめ

メディア・ジャーナリズム論講義V

(ドキュメンタリーを見て、語ろう。)

東野 真 講師 (NHK)

A1A2 ターム 火曜 6 限 (2 単位) 時間割コード: 5A101005

授業の目標・概要

NHK でドキュメンタリー番組を制作し、現在「ETV 特集」のプロデューサーを務めている講師が、自分の体験をもとにドキュメンタリーの魅力、可能性そして課題などについて皆さんと議論しながら考えていきます。理論的・体系的なものではなく、経験にもとづく実践的な内容になる予定です。

教科書

参考書

授業計画

- 第 1 週 テレビの中のドキュメンタリー
- 第 2 週 人間：映像でしか伝えられないもの
- 第 3 週 家族：選択的夫婦別姓はなぜ実現しないか
- 第 4 週 司法：死刑になった男は真犯人だったのか
- 第 5 週 入管：日本の中で起きている現実
- 第 6 週 詐欺：特殊詐欺が増え続ける理由
- 第 7 週 平和：本当に役に立つ支援とは
- 第 8 週 戦争：長期取材が明かす戦争の傷あと
- 第 9 週 戦争：人はいかにして兵士となるか
- 第 10 週 歴史認識：現代日本の難問に挑む
- 第 11 週 原子力：なぜ原発は増え続けたのか
- 第 12 週 ネット：通信の発達が拓く可能性と課題
- 第 13 週 自由討論

情報社会論講義Ⅹ

(～ネットメディアと地域を「編集」する～)

森 禎行 講師 (LINE ヤフー株式会社)

A1A2 ターム 水曜 5 限 (2 単位) 時間割コード: 5A301009

授業の目標・概要

◆ヤフーやスマートニュースなどネットメディアの最新の動きや、「学生が最も行くべき先進地」で多くの学生が訪れる「福島の進化」を主な題材に、これからの「情報社会」を考え、実践します。

◆講師は、毎日新聞記者と Yahoo!ニュース編集という新聞とネットメディアの2つのメディアを経験。商品開発や E コマース企画営業などを経て、今は関係人口創出にも従事しています。これら知見を踏まえ、「誰もが編集者」の時代において、ネットメディア (オンライン) と地域 (オフライン) の双方を重視した「編集力」を磨きます。

◆テーマは大きく2つあり、一つがネットメディアです。現代メディアで大きな役割を持つ、ヤフーやスマートニュースなどの取り組みを学びます。もう一つが、被災地から「先進地」に変わりつつある福島の動きを取り上げます。

◆メディアは、「知る」先の「アクション」が大切です。ネットメディアや地域を通した「実践」を提案します。

具体的には、以下を予定しています (変更の可能性あり)

- ・ネットメディアでは、実践ワークを予定しています (具体は講義で説明します)
- ・福島では、地域でのフィールドワークや活動をしている団体、20 代以下限定の人材育成プログラムとの連携などを予定しています。

◆授業は、本郷での対面を基本としますが、ハイブリッド講義を予定。福島からのオンライン講義も予定し、個別に訪問同行しての講義出席や現場体験が可能です。毎年多くの学生が現地訪問しています。メディアや地域を編集する楽しさを体感したい、積極的な学生をお待ちしています。

教科書

特になし (授業中に随時紹介)

参考書

特になし

授業計画

授業計画 (変更の可能性あり)

第1週: オリエンテーション (講義の方針/フィールドワークの説明など)

第2週: 「最先端のまち」を編集する (1) ※双葉町の取り組み

第3週: 「最先端のまち」を編集する (2) ※葛尾村の取り組み

第4週: ネットメディアを編集する (1) ～ヤフーの取り組み

第5週: ネットメディアを編集する (2) ～ヤフーの取り組み

第6週: ネットメディアを編集する (3) ～経済メディアの取り組み

第7週: ネットメディアを編集する (4) ～スマートニュースの取り組み

第8週：「最先端のまち」を編集する（3）

第9週：「最先端のまち」を編集する（4）

※上記日程で、福島でのオンライン講義と浜通り訪問（参加は任意）とする予定

第10週-第12週：地域を編集する またはネットメディアを編集する

第13週（1/10）：まとめ

メディア・ジャーナリズム論講義Ⅱ

(もうひとつのジャーナリズムを求めて)

河原 理子 講師 (元朝日新聞社)

A1A2 ターム 木曜 4 限 (2 単位) 時間割コード: 5A101002

授業の目標・概要

2020 年まで朝日新聞記者をしてきた講師と一緒に、「共感的理解」を手がかりに、ジャーナリズムの果たすべき役割を考えます。

「権力の監視」だけではなく、苦境にある人たちのことを伝えたり、ずっと社会に横たわっていた構造的な問題を見えるようにしたりするのも、ジャーナリズムの大切な役割です。とはいえ、他者を「わかる」ことは簡単ではありませんし、倫理を問われる場面もあります。

授業は、適宜、皆さんの意見を聞きながら進めます。自分の問いをたてる力、多角的に考える力を養います。

12 月にゲストを招き、インタビューして皆さんに書いてもらう予定です。そこに向けて、各自で調べて、発表してもらい、知り得たことを共有します。

倫理および言論表現の自由については、折々のニュースに触れるなかでと、1 月に話す予定です。

教科書

特にありません。必要に応じて資料配布します。

参考書

『〈犯罪被害者〉が報道を変える』河原理子・高橋シズエ編、2005 年、岩波書店

『〈オンナ・コドモ〉のジャーナリズム ケアの倫理とともに』林香里、2011 年、岩波書店

授業計画

第 1 週 ガイダンス

10 月 「松本サリン事件 事実と真実」「取材対象者との距離 寄り添うとは?」「日常に潜む問題を可視化する ハンセン病問題検証会議報告」

11 月 「犯罪被害者について知る」、インタビューの準備:リサーチと発表、問いをたてる

12 月 インタビュー、わかち合い、記事執筆

1 月 記事講評、「戦時下の言論」「SNS 時代の表現」、まとめ

以上は大まかな予定で、変更の可能性があります。詳しくは第 1 週に。

情報産業論講義 I

(未来をクリエイティブする)

太田 麻衣子 講師 (博報堂)

A1A2 ターム 木曜 5 限 (2 単位) 時間割コード: 5A201001

授業の目標・概要

かつて広告は時代の鏡であった。広告を通じて企業から生み出される商品やそれを生み出す姿勢を知った。デジタル時代の今は、その位置を超えて企業が社会に新しい価値を生み出すためのクリエイティブプロデューサーである。広告業というものが未来をよく生きるためのクリエイティブ産業に変容した現代、次世代に何を成せるのか。「原付でポルシェを抜かすには?」「薬になる空気はないか?」など。世の中を幸せにするための問いを見つけて、イノベーションを考えたいと思います。

教科書

なし

参考書

未来は言葉でつくられる 細田高広
デザイン思考が世界を変える ティム・ブラウン
クリエイティブ・マインドセット デイヴィッド・ケリー
どう解く?やまざきひろし

授業計画

- 第1週 広告の現在と過去
- 第2週 言葉と広告 1
- 第3週 言葉と広告 2
- 第4週 映像と広告 1
- 第5週 映像と広告 2
- 第6週 デザインと広告 1
- 第7週 デザインと広告 2
- 第8週 社会と広告 1
- 第9週 社会と広告 2
- 第10週 デジタルと広告 1
- 第11週 デジタルと広告 2
- 第12週 環境と広告
- 第13週 未来と広告

メディア・ジャーナリズム論実験実習 I

(ドキュメンタリー制作入門)

日笠 昭彦 講師

(元日本テレビ「NNNドキュメント」プロデューサー・LLC創造ノ森 代表)

A1A2 ターム 木曜 6 限 (4 単位) 時間割コード: 5A104001

授業の目標・概要

この授業は、福武ラーニングスタジオ 3 (福武ホール B2 階) にて「対面」で実施。

3~5 人でチームを編成してリサーチ～撮影～編集を繰り返しながら 20 分程度のドキュメンタリー作品を制作し、映像ジャーナリズムを体感します。

授業では TV プロデューサーである講師が制作上の助言をしますが、取材交渉や撮影・編集は主に大学構外で授業外の時間に行うことになります。

その時間を確保できない人は単位の取得が難しいと考えてください。

なお、完成作品は各映像コンクールに出品し客観的な評価を得ます。

* 2 年連続で「地方の時代 映像祭」を受賞

教科書

特になし

* 講師が制作に携わった TV 番組やニュース企画、過去の学生の作品 等

参考書

「映像メディアのプロになる！」

奥村健太・藤本貴之著/藤原道夫監修 (河出書房新社)

「書く力～私たちはこうして文章を磨いた～」

池上彰・竹内政明 著 (朝日新聞出版)

授業計画

10/5 ガイダンス「実習授業の概要と進め方」～講義「ドキュメンタリーの作法①」◇企画・リサーチ

10/12 メディアスタジオにて撮影機材のトレーニングワークショップ

10/19 受講者による企画案の発表～投票による企画の選考

10/26 班分け～班ごとに構成要素の洗い出し、役割と制作スケジュールの共有

11/2 班ごとに構成会議～講義「ドキュメンタリーの作法②」◇構成・撮影

11/9 班ごとに番組全体の構想と構成要素を発表

11/16 班ごとに構成会議～講義「ドキュメンタリーの作法③」◇編集・仕上げ

11/23 休講⇒この間にリサーチ～取材対象者への出演交渉と撮影を進める

11/30 講師による中間試写 (A 班、B 班) ～追加取材～再構成

12/7 講師による中間試写 (C 班、D 班) ～追加取材～再構成

12/14 講師による中間試写 (A 班、B 班) ～追加取材～再構成

12/21 講師による中間試写 (C 班、D 班) ～追加取材～再構成

- 1/4 講師による最終試写（A班、B班）～完成に向けて精査
- 1/11 講師による最終試写（C班、D班）～完成に向けて精査
- 1/18 全員による完成試写 ☆作品の上映と講評（A班、B班）～制作実習のふりかえり
- 1/25 全員による完成試写 ☆作品の上映と講評（C班、D班）～制作実習のふりかえり

メディア・ジャーナリズム論講義VI

(体験的・実践的ジャーナリズム入門)

福永 宏 講師

A1 ターム 金曜 5・6 限 (2 単位) 時間割コード: 5A101006

授業の目標・概要

東京大学新聞研究所・社会情報研究所・情報学環教育部同窓会が主宰する教育部 OB による講義である。現在、新聞、放送、雑誌などのいわゆる「既成メディア」は、知識人、種々の政治勢力、統治権力、一般大衆などさまざまな方面から批判を受けている。これはわが国のみならず、米国でもみられるように世界的な現象といえる。さらに、経済的にもネットメディアに追い上げられて部数、視聴率、広告収入などの経済的な面でかつてない厳しい状況に直面しており、こうした傾向は今後、さらに強まると考えられる。そこで本講義では、ネットメディアを含むジャーナリズムやメディアの現場で活動している本教育部出身者が自らの直接的な体験を踏まえ、現在の言論界の状況やジャーナリズムが置かれている実情を紹介・解説し、受講者と討論する。将来、メディアやジャーナリズム分野へ進もうと考えている者はもちろん、他分野への就職を考えている研究生にとっても、「現在」を理解するために有益な体験となるであろう。

教科書

なし

参考書

特に定めないが、ジャーナリズムや報道機関に関する基礎的な知識を養えるような文献を読んでおくとよい。

授業計画

毎回、教育部 OB のゲスト講師が交代で、自ら現場で関わってきた新聞、放送、雑誌・出版、広告および報道一般の幅広いテーマを講義する。

授業日程は以下の通りである。

- | | | | |
|-----------|--------|------|----------------------------|
| 10/06 (金) | 17:00～ | 福永 宏 | 読売新聞社・東洋経済新報社 OB |
| 10/13 (金) | 17:00～ | 高木 徹 | NHK チーフプロデューサー (報道系) |
| 10/20 (金) | 17:00～ | 土生修一 | 読売新聞社 OB、日本記者クラブ前専務理事 |
| 10/27 (金) | 17:00～ | 萩原 豊 | TBS 報道局解説・専門記者室長 |
| 11/10 (金) | 17:00～ | 芹川洋一 | 日本経済新聞論説フェロー |
| 11/17 (金) | 17:00～ | 水谷典雄 | 博報堂 OB、作家 |
| 11/28 (火) | 17:00～ | 糸永正行 | 日刊工業新聞社局次長・M&A Online 編集委員 |

メディア・ジャーナリズム論研究指導V

(災害情報・調査法：東京電力福島第一原子力発電所事故の調査・研究)

関谷 直也 教授

通年 集中 (2単位) 時間割コード： 5A103006

授業の目標・概要

東日本大震災、東京電力福島第一原子力発電所事故から12年が過ぎました。この震災、原子力事故の被害、復興の課題、困難をどのように伝えていくか、これは非常に大きな課題です。

ジャーナリズムを学ぶみなさんにとっても、この課題は今後数十年続いていくことになり、現在の10年の課題を理解しておくことは、また①福島原発事故や東日本大震災の教訓をどう伝え、今も残る課題にどう対処すべきか、②今後の災害や危機を考える上で基礎として、③さかのぼって広島・長崎の原爆、沖縄問題などをどう考えていくべきかを考える契機にもなる非常に重要なタイミングだと考えています。

この演習では、夏休みの3日間に福島県大熊町・双葉町を訪れ、調査を行いたいと思います。

前提知識は必要としませんが、研究指導ですので本テーマに関心・興味があることを前提とします。

教科書

授業中に指示

参考書

授業中に指示

授業計画

下記、(1) ガイダンス、(2) 現地フィールドワーク全日程に参加することを条件とする。

- (1) ガイダンス1
- (2) 現地フィールドワーク及び講義
- (3) 報告会